

令和5年度 教職員・児童・保護者学校評価考察及び改善の方策

| 目標 | 質問項目番号 | 教職員 | | 児童 | | 保護者 | | 考察 | 方策 | |
|---------------------|---|-----------------|---------|--------------|-----------|---------|--|--|---|--|
| | | 評価値 | 昨年度差 | 評価値 | 昨年度差 | 評価値 | 昨年度差 | | | |
| スローガン | ☆ 『清静勤働』を意識しての行動 | 3.46 | | 3.2 | | | | | | |
| | おおきなこころで | 1 人権、平和 | 3.54 | 0.00 | 1 3.32 | ↓0.13 | 1 3.43 | ↓0.09 | ○学級経営及び人権・命の尊重等の項目では前年度より評価が若干下がったが、概ね良好な結果となった。今年度の「清静・勤働静くもりのない心で、今、何をすべきか考えよう～」のスローガンを意識した行動が多くなり、けじめのある行動や思いやりのある行動等をとれる児童が増えてきた。ただ、その行動にも二極化が見られ、特別活動をはじめ、様々な活動を通して、良好な人間関係及び支持的風土の醸成に引き続き努め、より充実させる必要がある。 | ◆教師が人権侵害行為を絶対に許さない姿勢を持ち、児童の周囲で起きる事象を分析し相互に話を聞き真意を汲み取るように努めたり、日常の学校生活において、児童の状況をよく観察する。 ◆組織的対応を基本にし対応する。 ◆特別活動（計画・話し合い・準備・実践・事後）の指導に力を入れ、他教科とも関連を図りながら支持的風土の醸成に力を入れる。 |
| | | 2 命、人間関係 | 3.83 | ↓0.05 | 2 3.49 | ↓0.11 | | | | |
| | | 3 学級経営 支持的風土の醸成 | 3.63 | ↓0.04 | 3 3.43 | ↓0.01 | | | | |
| | | 4 挨拶、言葉遣い | 3.50 | ↓0.13 | 4 3.30 | ↓0.05 | 2 3.34 | ↓0.24 | ○前年度より若干下がりが気味ではあるが、概ね良好な結果である。ただ、児童の習慣化・定着が不十分であり、引き続き根気強く学校全体で取り組む必要がある。 | ◆今後も「当たり前」のことが当たり前でできるように、子どもの意識を高めていくとともに、生活指導の重点項目を再度確認し合い組織的に統一した指導を徹底する。また、家庭や地域でも指導や声かけを徹底していただけるよう育友会や学校支援会議を通してお願いし、学校のみならず家庭や地域ぐるみでの啓発を推進していく。 |
| | | | | | 5 無言清掃、履物 | 3.23 | | | | |
| | | 5 道徳教育推進 | 3.18 | ↓0.18 | 6 3.33 | ↓0.04 | 3 3.27 | ↓0.04 | ○今年度も多角的な考えや話し合いで深め合う道徳の授業を目指して取り組んできたが、まだまだ子どもの道徳的実践力向上には不安が残る。 | ◆「特別な教科道徳」の授業の在り方、指導のポイント、指導過程、評価などについて実践を積み重ねながら研修するとともに、道徳的態度や実践力を意識し、日常の学校生活において逐次助言をしていく。 |
| | | 6 個の背景特性把握 | 3.73 | ↑0.16 | 7 3.48 | ↓0.15 | 4 3.29 | ↓0.04 | ○概ね良好だったが、まだまだ自分に自信がもてず、人前で自分を表現することが苦手な子どもも多いため。 | ◆児童個々について日々の気づきを記録にとり等して特性を把握したうえで、良さをできるだけ多く発見し、称賛の場を設け機会を増やすようにする。また、学習やコミュニケーション等に困り感のある子どもに対する適切な学習の場を提供することを今後も引き続き推進していく。 |
| | | 7 自尊感情の育成 | 3.65 | ↑0.27 | 8 3.60 | ↓0.06 | | | | |
| 8 個に適した指導 特別支援教育の推進 | 3.41 | ↓0.02 | | | | | | | | |
| ぐんぐんのびる | 9 基礎体力向上 | 3.09 | ↓0.18 | 9 3.45 | ↑0.05 | 5 3.30 | ↑0.12 | ○基礎体力（持久力）等が全国平均より劣っていたが、体育での基礎体力向上に向けた運動量の確保や縄跳びチャレンジ等で、2回目の体力テストでは、伸びが見られた。 | ◆今後も外遊びと体育での十分な運動量の確保を継続しつつ、毎年の体力テストの結果分析及び改善に向けた取組を進めることとあわせ、「縄跳びチャレンジ」や児童企画の「逃走中」など楽しんで基礎体力の増進ができるように工夫していく。 | |
| | 10 早寝早起き朝ごはん 基本的な生活習慣 | 2.83 | ↓0.13 | 10 3.20 | ↓0.01 | 6 3.34 | ↑0.01 | ○概ね良好であるが、基本的な生活習慣の項目は、若干低い結果となった。まだまだコロナ禍での影響が尾を引いている感も否めない。特に寝る時間や起きる時間が不規則になる傾向や朝ごはん抜きや遅刻等の多い児童も見受けられる。今一度基本的な生活習慣や睡眠時間の確保等指導が必要である。 | ◆定期的なパワーアップカードの実施のみならず、日頃から適切な生活リズムの重要性やメディアとの上手な付き合い方を指導するとともに、家庭でも「早寝・早起き・朝ごはん」の励行をお願いしたい。今後も学校と家庭とが共通理解と共通実践のもと健康な生活態度の育成を推進していく。 | |
| | | | | 11 健康な生活態度育成 | 3.42 | | | | | 0.00 |
| | 12 食習慣形成（食育） | 3.17 | ↓0.16 | 14 3.24 | ↓0.04 | | | | | 7 3.38 |
| | 13 教育活動適度な負荷 | 3.58 | ↑0.08 | 15 3.32 | ↓0.10 | 8 3.32 | 0.00 | ○概ね良好な結果で、児童も負荷に対してそれを乗り越える努力をしていることがうかがえる。今年度も体験活動等を状況に応じて実施できたことで子どもたちに達成感や成就感を味わわせることができた。 | ◆今後も学級全体、児童個々の状況を把握しながら、適度な負荷をかけ乗り越えるための支援を十分に行いながら、自主性や苦しいことを乗り越える力をさらに身につけていくように指導を工夫していく。 | |
| | 14 負荷と成就感 | 3.46 | ↓0.02 | | | | | | | |
| りっぱな考えをもつ | 15 学習への集中 めあて・まとめ 発表・話し合い 主体性・意欲 教師の指導・支援 | 3.30 | ↓0.06 | 16 3.39 | ↓0.08 | 9 3.32 | ↓0.03 | ○学習に対する項目では、前年度より若干低くなったが、概ね良好である。学習に向かう姿勢及び集中力もついてきている。ただ、自分を表現したり、話し合ったりすることにはまだまだ苦手意識がある。 | ◆特別支援教育の観点からも児童個々の様々な特性を把握し、適切に対応できる指導法を工夫しながら授業等に臨む。 ◆課題を設定し考察・まとめの関係を明確にした授業や、個による思考、全体としての思考場面を確実に設定する。また、ペアやグループ、全体での協議の場を設け、児童の考えが課題解決に生きるよう配慮した授業構成を実践する。 | |
| | | | | 17 3.4 | ↓0.11 | | | | | |
| | | | | 18 3.09 | ↓0.01 | | | | | |
| | | | | 19 3.3 | ↓0.06 | | | | | |
| | | | | 20 3.71 | ↓0.04 | | | | | |
| | 16 自学自習方法指導 | 3.04 | ↓0.14 | 21 3.41 | ↓0.05 | 10 3.28 | ↓0.08 | ○自学・自習については、内容や方法等の指導にさらに力を入れる必要がある。 ○家庭学習の習慣化については多少二極化が見られ、引き続き学校と家庭の連携のもと、取組を継続していく必要がある。 | ◆自学の方法や内容等について、具体例を児童に示しながら、年度当初に再度徹底指導する。 ◆「家庭学習の手引き」の周知・理解をさらに進めるとともに、家庭での学習時間の確保や主体的に学習に向かう方策（できたことへの称賛・タブレットを使った課題等）など子どもの家庭学習環境を整えていく。 | |
| 17 家庭学習習慣化 | 3.22 | ↓0.01 | | | | | | | | |
| 18 読書量の伸長 | 3.23 | ↓0.09 | 22 3.17 | ↑0.02 | 11 3.15 | ↓0.13 | ○学校全体としては、今年度も読書量が増えている。しかし、個人差があり、二極化が進みつつある。学級でも家庭でも本に親しむ習慣化が今後も大切である。 | ◆今後も良き本や子どもが興味をもちそうな本の整備を行ったり、読書の時間や学級図書を活用により身近に本に触れさせる手段を講じたり、子どもの関心意欲を引き出す図書館経営を推進していく。 ◆育友会や図書ボランティア「アリス」さんとも連携し、家庭読書の推進を図るようにする。 | | |
| その他 | 19 校内研究の推進 | 3.30 | 0.00 | | | | | ○今年度は、国語科の説明文の読解力の育成と要旨をまとめて書く活動及びICTを活用した授業の在り方について研修を進めてきた。 | ◆今後も今年度の成果と課題を明らかにし、改題解決のための方策を探っていく。 | |
| | 20 保護者面談 | 3.36 | ↑0.07 | | | 12 3.45 | ↓0.02 | ○保護者面談の実施及びその後の対応を概ね円滑に進め、保護者と情報共有等ができた。 | ◆今後も保護者や学校のニーズに合わせた面談で、子どもたちの困り感や悩み等共有し解決策等を模索する中でよりよい学習環境を整えられるようにしていく。 | |
| | 21 地域との連携 | 2.83 | ↓0.21 | | | 13 3.46 | ↓0.05 | ○行事や体験学習など地域との連携で多くのよき体験ができた。ただ、連携の内容や方法、学校・地域双方の負担の軽減等については、現状に応じて改善していく必要があると感じている。 | ◆次年度に向けて、学校支援会議等で今年度の反省をもとに状況に応じた体験活動ができるように早めの企画、折衝で地域との連携をスムーズに行えるように協議していく。 | |
| | 22 学年・学級通信 | 3.13 | ↓0.04 | | | 14 3.50 | ↓0.04 | ○定期的な学校だよりや学年だより及び毎日のホームページ更新等での情報発信を行った。また、安心メールや欠席報告システム等の活用により家庭、学校相互の情報共有が確実に進んでいるようになった。 | ◆今後も定期的な通信やホームページ、安心メール等での情報発信をするとともに、できるだけ早めの発信を心掛けていくようにする。 | |
| | 23 育友会・地域行事 | 2.71 | ↓0.12 | 23 2.26 | ↓0.01 | 15 3.34 | ↓0.03 | ○今年度は、育友会活動もコロナ禍前の活動に少しずつ戻っていった。その活動内容等については、学校と育友会、地域がどのように協働していくか考えていく必要がある。 | ◆次年度は、状況に応じて、学校、育友会、地域が連携して子どもの健全な成長を促すような活動ができるように配慮していく。 | |